登山・登攀の記録

北アルプス積雪期縦走　爺ヶ岳～槍ヶ岳

日　　時：1963 年 3 月 13 日～4月 10 日

メンバー：（本隊）L 井川裕、鹿田晴彦、三牧建一、松田聖雄、橋本昭、山本和房

（縦走隊）岩佐吉洋、上出協範

槍からの穂高連峰

概要：この年の春山合宿はテントを持たず、雪洞のみで（一部山小屋利用）爺岳から槍ヶ岳まで縦走することに決めた。メンバー構成から爺岳～船窪までを2名で縦走隊とし、船窪小屋で本隊と合流、槍ヶ岳まで行動を共にすることにした。縦走は一ヶ月にも渡る長期となるため、10月に秋山合宿も兼ね冷小屋、烏帽子小屋に食料をデポした。合宿後半の槍ヶ岳北鎌尾根登攀計画は隊員凍傷のため断念した。天候に恵まれず、予備日をフルに使った長期山行となったが、合計9箇所で雪洞を掘り、貴重な体験となった。

記録（縦走隊）

3月13日　晴のち曇

鹿島部落（10:00）－西俣出合（13:00）－雪洞1（15:00）

源汲から歩き赤岩尾根取付きで雪洞1を掘る。

3月14日　雪時々曇

雪洞1（9:00）－高千穂平（10:50/13:40）－雪洞 2（17:00）

昨夜来の降雪によりトレールも消える。昼食を高千穂平でとり、最後のジャンクション下で雪洞 2 を掘る。

3月15日～16日　雪

停滞。

3月17日　雪

雪洞 2－冷池小屋－爺岳－種池小屋

相変わらず吹雪いている。縦走を諦めるにも強行するにも出発しなければ、と荷物をまとめて外に出る。上から降りてきたパーティが、斜面のフィックスを使ってくれとのこと。天の助けとトレールとフィックスを使い登る。トレールが付いていても雪崩道のトラバースはやはり怖い。冷池小屋に入り、秋にデポした荷を整理する。荷物を軽くするため、かなりの食料を残置した。爺岳の樹林帯でラッセルに悩まされ、5時間近く掛かって種池小屋に入る。

3月18日　雪

ラッセルひどく、13時半岩小屋岳芋苅のコルで少し早いが、雪洞 3 を掘る。

3月19日　快晴

雪洞 3（8:30）－鳴沢岳（14:30）－スバリ岳（18:30）

入山以来始めての快晴。針の木小屋まで入る予定であったが、スバリ岳でダウン。ケルン横の吹き溜まりに半雪洞 4 を掘る。

3月20日　雪、烈風

烈風で視界も効かず、雪庇を恐れて進むうち、針ノ木岳頂上から東進しなければならないのを通り越してそのまま南下してしまった。傾斜が強くなったのですぐ気が付いたが、その場で雪洞 5 を掘る。本隊との合流日であるがトランシーバの定時交信が全く通じない。

3月21日　地吹雪のち晴

12時半、針ノ木岳に向かって引き返す。相変わらず視界が悪く、古い踏み跡を見つけてたどるが着いた所がスバリ岳。あわてて引き返す。針ノ木小屋少し手前の岩場で岩佐はザラメに足を取られて 20m 程スリップ。予定より行動が遅れ、本隊と連絡が取れぬ焦りか、今日はどうもおかしい。針ノ木小屋に入る。

3月22日　地吹雪
停滞。入山以来、初めて本隊と連絡が取れる。トランシーバは尾根でさえぎられると役に立たないようだ。
3月23日　薄曇
針ノ木小屋（7:50）－蓮華岳（9:10）－北葛岳（11:30）－本隊の七倉岳雪洞（15:20）
北葛岳のコルで三牧、松田の出迎えを受ける。予定に遅れること3日だが、お互いの無事を喜び合う。

記録（本隊）

3月14日　晴
大町－葛温泉－七倉営林署小屋
4名は七倉から葛まで逆ボッカ。2名は七倉尾根1500m付近までルート工作。
3月15日　晴
BH（4:30）－七倉尾根 2000m デポ－BH（15:25）
全員で荷揚げ。標高2000m付近に荷物をデポ。ラッセルは膝くらいまで。
3月16日　みぞれ
BH（7:10）－七倉尾根2000m付近（14:25）雪洞1
昨日のデポ地近くに雪洞1設営。積雪量1m30cm位と少なく、半イグルー形とする。
3月17日　雪
雪洞1（9:50）－2300m（13:20）－雪洞1（15:15）
井川以下3名2200m付近に荷物をデポし、それより上は空身でルート工作。腰までのラッセル。尾根の右側の急なルンゼをトラバースし、2300m 付近より引き返す。
3月18日　雪
停滞。縦走隊との最初の交信不通。
3月19日　快晴
雪洞1（7:20）－船窪小屋雪洞2（16:40）
七倉沢へ巨大な雪庇が張り出しており、また沢への雪崩も多発。昨日工作時のトラバース地点を通らずその左の岩とブッシュのルンゼを通過。フィックス一本設置。船窪小屋は雪に埋もれていた。近くに雪洞2を掘る。
3月20日～21日　雪
停滞。

3月22日　地吹雪
鹿田以下4名は途中のデポ地点へ逆ボッカ。2450m のピークから雪洞 2 へのトラバースは腿までのラッセルを強いられた。井川、三牧は縦走隊のサポートに出発したが強風のため引き返す。交信の結果、針ノ木小屋にいる縦走隊と連絡がついた。
3月23日　曇
井川以下4名はデポを兼ね船窪へルート工作。二峰の上りに一本、下りに30m ザイル二本フィックスした。二、三峰のコルに荷をデポして戻る。三牧、松田は縦走隊サポートに向かい、北葛のコルの手前で合流。全員が雪洞2に集結。
3月24日　晴
雪洞2（7:25）－船窪岳頂上（16:25）
岩佐以下3名先発隊として出発。本隊5名。先発隊が船窪岳上りのルート工作の間（ここで30mフィックス）、本隊は前日のデポ地へ逆ボッカし船窪岳基部にデポ。明日の天気を考え、井川以下4名は再び逆ボッカに下る。他は雪洞3を掘る。
3月25日　雪
停滞。

3月26日　晴
船窪雪洞3（7:10）－不動岳基部（17:00）
雪庇と樹林帯の中のラッセルに悩まされ牛歩の如く。目的の烏帽子小屋までは到底行けず、不動岳ピーク下の樹林帯の切れたところで雪洞4設営。
3月27日　雪
停滞。
3月28日　晴
不動岳基部雪洞4（7:30）－烏帽子小屋（15:40）

南沢岳頂上近くでは表面クラストした雪面が続く。烏帽子岳は夏道が通れずピークの岩を巻いて通過。久しぶりの山小屋泊。

3月29日　曇後晴

停滞。

慈恵医大、近大と同宿。

3月30日　快晴

三ツ岳からは夏道が現れている。東沢乗越手前ピークに荷をデポし引き返す。三牧下山。

3月31日　快晴後曇

烏帽子小屋(7:40)－三俣蓮華小屋(15:35)

上出、鹿田はブナ立尾根より下山。阪大が外に幕営。

4月1日　雨

停滞。

水晶アタック

4月2日　晴

三俣蓮華小屋(6:55/17:00)

水晶岳アタックを兼ね、先日のデポ地まで逆ボッカ。雨が岩に凍りつきアイゼンが効かない。水晶岳で千葉大医学部パーティに会う。

西鎌尾根

4月3日～4日　雨

停滞。

4月5日　晴

三俣蓮華小屋(5:40)－槍ヶ岳肩冬季小屋(15:00/16:30)⇔槍ヶ岳山頂

西鎌尾根は腐った雪に悩まされる。槍ヶ岳がファイナルピークとなる。

4月6日～7日　雨

停滞。

4月8日　みぞれ

槍ヶ岳肩の小屋(7:50)－横尾山荘(13:25)

朝、しばらく天気の様子を見て出発。ずぶ濡れになって小屋に入る。東大パーティと同宿。

4月9日　雨

停滞。

時間を見て横尾散策。

4月10日　雨

横尾山荘(6:20)－坂巻温泉(13:45)

(部報 No.2「1963 年度　春山合宿(男子)」をベースに、文責:岩佐)

坂巻温泉